

プレクラス制度についてのアンケート調査の結果について

報告内容

児童の実態に応じた学級編制により、安定した学年・学級運営を行うために本年度から導入したプレクラス制度について、管理職対象のアンケート調査を実施しました。

1 調査結果概要

- ・プレクラス制度に対する保護者の反応は「概ね肯定的であった」が最も多く（14件）、制度の効果も「効果があった」が13件、「とても効果があった」が5件と、肯定的な評価が見られました。
- ・改善案や必要事項としては「学年教員等での綿密な情報共有」、「指導の統一性」、「児童の特性を見極める教員の力量」、「事務作業の効率化」などが頻出しており、これらが制度の有効性や満足度向上にとって重要です。
- ・保護者の反応と制度効果のクロス集計からも、肯定的な反応の多くが「効果があった」と結びついており、制度の導入が一定の成果を上げていることがわかります。

2 調査方法 Microsoft Forms によるオンライン調査

3 調査対象 区立小学校管理職（単学級の青山小学校を除く18校）

4 調査期間 令和7年9月3日（水）から11日（木）まで

5 質問項目

（1）プレクラス制度の効果について選択してください。【必須：択一式】

- ①とても効果があった ②効果があった ③あまり効果はなかった
④効果はなかった ⑤まだわからない

（2）（1）の回答理由を記載してください。【必須：記述式】

（3）プレクラス制度をより効果的なものにするために必要だと思うものを選択してください。【必須：複数選択式】

- ①管理職のリーダーシップ ②学年主任のリーダーシップ
③学年教員等での綿密な情報共有 ④学年教員等での指導の統一性
⑤幼稚園等からのより精度の高い引継ぎ内容 ⑥事務作業の効率化
⑦各校の実施状況の共有 ⑧プレクラス期間中の保護者との面談
⑨児童の特性を見極める教員の力量 ⑩プレクラス期間の延長
⑪その他（記述）

- (4) プレクラス制度の保護者の反応について選択してください。【必須：択一式】
 ①肯定的であった ②概ね肯定的であった ③概ね否定的であった
 ④否定的であった ⑤わからない・特に反応はなかった
- (5) 自校での取組を振り返り、次年度に向けた改善案などがあれば記載してください。
 【任意：自由記述式】

6 調査結果

- (1) プレクラス制度の効果について選択してください。

選 択 肢	とても効果が あった	効果があった	あまり効果は なかった	効果はなかった	まだわからない
回答件数 (件)	5	13	0	0	0
回答割合 (%)	27.8	72.2	0.0	0.0	0.0

- (2) (1) の回答理由を記載してください。

【「とても効果があった」と回答した学校】

- ・あらかじめ児童の様子がわかったことはもちろんだが、保護者の様子もわかり配慮できたことが良かった。学年の教員全員で見るという視点が育った。
- ・早々と人間関係のトラブルが起こり、プレクラスがあったことで環境を変えることができました。学年の情報共有も自分ごととなり、団結力が生まれました。
- ・幼稚園等からの引き継ぎでは見えなかった児童の特性や人間関係等について把握することができ、それをもとにしたクラス編制を行うことができた。
- ・プレ期間があることにより、子どもの特性、子ども同士の関係性、保護者の意向等を反映して、クラスを決定することができた。
- ・組織として安定した学校・学年経営が行える仕組みであり、教員個人の能力ではなく一年生のスタートを切ることができる。学年に関わる全ての教員で児童を見とり、編制を考えていくなかで、学年の教員全体で見ていくという意識を持つことができる。様々な児童が入学してくるなかで、幼・保からの情報だけでなく、学校サイドで児童個々や集団の適正が見られる期間はとても大切なことと捉えました。

【「効果があった」と回答した学校】

- ・入学直後の大切な時期に、プレクラスを見据えて担任が全てのクラスに関わることで、同じルール、進度で進めることができた。また、入学してからの保育園や幼稚園からの情報だけではわからない人間関係や相性があり、正式クラスの時に適切にクラス分けを行うことができた。
- ・4学級の担任が情報共有し、学習指導・生活指導にあたったので、その後の学年経営が安定し、児童・保護者に対応できている。
- ・幼稚園や保育園からの情報だけではわからないことがあり、プレクラスで観察し、クラス分けを改めてすることができたから。
- ・担任の情報共有ができ、児童理解につながった。教材や指導方法を統一し、同じ進度で授業を進めることができた。児童の状況を把握し、学級編制を行うことができた。
- ・児童同士または児童と教員の関係性を踏まえての本クラス決定をすることができた。
- ・当初想定していた児童及び保護者に係る対応の実態のずれや、児童間の関係や担任との

<p>関係による調整などが修正対応でき、<u>本学級を決めた後の様子も落ち着いているため。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>どの学級の先生もすべての1年生の顔を知れて、その後の学年経営に役立たせることができたから。</u> ・指導上、当初に<u>課題のある児童に偏りがあり、振り分けることができた。</u> ・教員が児童全体の様子や特性を把握することができる期間があるのは効果があったと言える。一方、本クラスのスタートが1か月遅れることにより、学級のまとまりも遅れてのスタートになるため、<u>スタートアッププログラムが改めて必要になる面が少なからず生じ、効果的と言い切れない部分がある。</u> ・児童の実態や保護者の様子を観たうえで学級編制ができたこと ・学級編制上の<u>保護者からの要望に対応ができた。</u> ・本クラスを決めるにあたり、児童や保護者の実際の様子をみてから決めることができるのは、<u>1年間を考えた際に有効</u>である。反面、<u>事務的な作業量、配慮が必要な児童への負担感などに課題</u>は残る。 ・児童理解が学年全体で出来、クラス編制を行う事はとても良かった。一方で、<u>保護者の中に数名プレクラス制度を批判する意見もあったため。</u>
--

(3) プレクラス制度をより効果的なものにするために必要だと思うものを選択してください。

選 択 肢	回答件数 (件)	回答割合 (%)
①管理職のリーダーシップ	7	38.9
②学年主任のリーダーシップ	9	50.0
③学年教員等での綿密な情報共有	15	83.3
④学年教員等での指導の統一性	13	72.2
⑤幼稚園等からのより精度の高い引継ぎ内容	5	27.8
⑥事務作業の効率化	10	55.6
⑦各校の実施状況の共有	1	5.6
⑧プレクラス期間中の保護者との面談	3	16.7
⑨児童の特性を見極める教員の力量	11	61.1
⑩プレクラス期間の延長	0	0.0
⑪その他	0	0.0

(4) プレクラス制度の保護者の反応について選択してください。【必須：択一式】

選 択 肢	肯定的であった	概ね肯定的であった	概ね否定的であった	否定的であった	わからない・特に反応はなかった
回答件数 (件)	2	14	0	0	2
回答割合 (%)	11.1	77.8	0.0	0.0	11.1

(5) 自校での取組を振り返り、次年度に向けた改善案などがあれば記載してください。

<p>【「とても効果があった」と回答した学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>プレクラス制度の趣旨を保護者に十分に理解してもらう必要がある。</u>(保護者が担任を選べるという制度ではない。) ・引き続き推進していく。 ・大きな改善案というのはありません。
--

- ・入学前に聞いた、園や保護者からの事前情報を確実に新年度に引き継ぐ。
- ・他学年の理解と効率的な協力計画を組む必要があると感じています。

【効果があったと回答した学校】

- ・プレクラス期間の、配布物、配布物の回収、伝達事項は全て足並み揃えて行う事。本クラス開始に向けた作業時間を行事予定に位置付け、全教職員で取り組む。がくぶりや、すぐーるの再編制を含めて、確実に行えるように時間を確保する。
- ・プレクラス期間をもう少し伸ばすと児童の性格が明確になり、よりその後の学級編制がしやすいと考えた1年担任がいた。
- ・プレクラスの時点で、指導が統一されていることが必要と感じた。例えば給食指導等において、担任による指導に違いがあると、本クラスになった時にまた一から指導をすることになるなど非効率であった。学年で常に同じ指導になるよう学年主任にリーダーシップを発揮させ、情報を共有させていく。
- ・事前の準備を計画的に進めること。
- ・1年担任の負担が大きい。年度当初の校務分掌などの業務で負担軽減を図る。
- ・事務的作業の効率化
- ・入学式の写真はとても記念になるものだと思うが、担任の先生が代わったり、クラスメイトが半分違ったりするので、次年度は人数にもよるが、全員で学年そろって写真を撮ることを検討している。
- ・本年度同様、2回のプレクラス編制を経た調整期間を設けて取り組む。外国籍の児童や言語での対応など、特別な配慮を要する児童がいる場合のノウハウを、各学校で情報共有できるとよい。
- ・保護者の反応について、肯定的な意見と否定的な意見は少数あったが、概ね肯定も否定もない反応であった。肯定的意見は、慣れることができてよかった。否定的な意見は4月から築いた友達関係がやり直しになることが子どもにとってストレスだった点であった。本校はE S Cの学級変更はないため、プレクラスに関わらない児童もいる。人間関係や児童の特性から本クラスを分けたが、例年前述の課題は生じることから、保護者への丁寧な説明を継続する。本年度、幼保の情報を基に仮の最終クラス分け後にプレクラス編制を行ったことは非常に有効であったが、他の方法を試してもよいと思われた。
- ・本クラスの編制作業や教室等整備の時間を確保することを継続する。
- ・保護者の反応について「わからない・特に反応はなかった」と選択したのは、このままでよいという意見が肯定的なのか否定的なのか分からなかったため。本校では、プレクラスのクラス分けがうまくいったためクラスの変更はしなかった。プレクラスの時期に保護者からは、「クラスの変更をしないほしい」という意見を多数もらっていた。このようにうまくいっている場合は、プレクラスだからといって無理に変更しなくてよいと思うので、次年度も保護者の意見や校内の意見をよく聞いた上で実施していきたい。